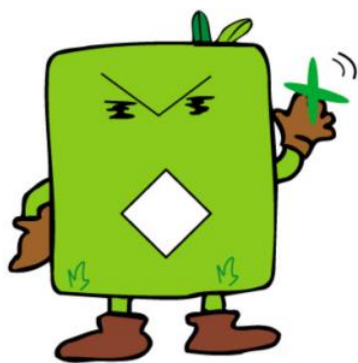




いすみスタイル.Com

isumi-style

地球環境基金助成事業 活動紹介編



2016年度から2020年度まで、地球環境基金の助成を受けて「森・里・水田・川・海一体型環境保全による夷隅川流域での生物多様性と里山・里海環境維持活動」を実施してきました。続いて2021年度から2022年度までは、その5年間の活動で得られた成果発展させるために、新しい活動に取り組んで来ました。

それまでの活動テーマ「生物の多様性に富む里山・里海の環境を維持し、持続可能な地域づくりを行える社会的環境が整える」により近づくために、環境省が推し進める「地域循環共生圏」づくりの構想の主旨に賛同し、その中の「健康で自然とのつながりを感じる『ライフスタイル』視点での「衣・食・住にわたるオーガニックビジネス」づくり推進の準備活動を行ってきました。



活動1：環境保全を兼ねたエコツーリズムにつながるイベントの実施

1. 有機畑体験イベント

有機野菜を栽培している「ゆめいろ農園」と「ちまちファーム」さんに協力いただき、有機野菜の収穫体験と生きものの観察を実施してきました。

農業を使っていないために、いろんな生きものが野菜や土の中に隠れています。小さな子どもたちが野菜や土を直接触ることを心配する必要もありません。



親子で体験できるこうした環境を提供できる地域イベントの存在は貴重です。



2. リパークリーン

「いすみパドルクラブ」さんの協力を得て、SUP（スタンドアップパドル）を使って夷隅川の川掃除と環境保全啓蒙活動を行っています。大人に交じって小さな子供たちも元気に参加してくれ、これまでにたくさんさんのゴミを拾ってきました。

お問い合わせは、いラ研（☎0470-62-6730）、または、いすみパドルクラブ（☎080-5548-0289）まで。



活動2：循環と共生を加速させる教育ツールの開発と環境の整備

1. 生物多様性と資源循環、有機農業の仕組みや重要性を学ぶシリアスゲームの制作（と活用）

課題解決のために学びは欠かせません。学びのための手段として、最近ではシリアスボードゲームが関心を集めています。本事業でも、2020年度に「米づくりボードゲーム」制作に協力してくださった東京大学空間情報科学研究センターの今井修さんのご協力のもと、地域の持続性を学ぶボードゲームを制作しました（写真左）。地域資源「ヒト・モノ・コト・場所」をどう循環させるのかについて議論を重ね、地域資源を「人材」に絞り込み、「人材」が地域に存在する地域資源を活用して持続可能性を高めていくというゲームを作ることにたどり着きました。

一方、「米づくりボードゲーム」は今井さんの了承を得て、子どもたちがやりやすいものに改良し、2022年11月の「ライスデー房総」で子どもたち相手にワークショップを行いました（写真右）。



2. 教育関係者情報交換会の開催

今回の活動の中心には「オーガニック（有機）ビジネス」づくりがありますが、本来の目的はそこにはありません。地域の環境保全であり、有機ビジネスを地域で進めることを通じて、市民のみなさんに生きものや環境への理解と思いやりを深めていただくことが目的のひとつです。特に、子どもたちにどう伝えていくかが重要です。そこで、地元の小学校の先生、市役所の職員にも集まっていただき、地域での学びをどうしていくかについて意見交換を行いました。





活動 3：共生圏を形作る地域のステークホルダーの棚卸

1. 連絡会準備会の開催

「地域循環共生圏」を作るための推進母体、「プラットフォーム」と呼ばれるものを作ることを環境省は推奨しています。本助成事業ではこれを作る準備を行ってきました。

1年目は地域で様々な活動をされている方々に集まっていただき、ヒアリング会を実施しました。2年目にはヒアリング会のほかに、アンケートを実施しました。地域にはどのような資源があるのか、どのように活用していけばよいのかなどについて意見をお聞きしました。また、過去どのような地域資源循環があり地域経済を成り立たせていたかについてもお聞きしました。



いす研の本事業の課題は、経済のグローバル化が進み、環境破壊が進み、気候変動が持続可能な世界に対するリスクと言われている現在を乗り越えていくための循環を作り出すことです。過去を参考にしながらも、有機農業を柱にして未来志向の地域資源循環をどう作っていいのか、ひとりひとりがそれぞれ持っている「種」を、どうつないでいくのか、工夫のしどころです。

2. ステークホルダーリストの作成

有機農業を柱にした持続可能な地域づくりに参加してくれそうな人たち、地元の有機農産物を活用して生産・流通・消費活動を行っている人たちを本事業でリストアップしました。それぞれの考えと活動フィールド、事情をお持ちの彼らを無理なくつなげていく

には、全体をつなぐひとつの大きな循環を作るという選択もあるかもしれませんが、小さなグループが作る小さな循環をあちこちに作り、それらをつなぐような複層的、重層的な循環を作るということもあるかもしれません。

3. 地域循環共生圏マंडラ作成

上記ステークホルダーリストを、「地域循環共生圏マंडラ」として図にしました。この特徴は「生物多様性の主流化と有機農業による持続可能な地域を作る」というコンセプトが全体の循環の構造を支えていること、循環の中に「生きものたち」が含まれていることです。



活動 4：本活動を地域内外に知ってもらうための情報発信

1. ニュースレターの発行

いす研では、活動を多くの方々に知っていただくために、毎年ニュースレターを発行し、ダウンロードできるようにしています。

本事業では、本号含め3号発行いたしました。中でも「いすみオーガニック何それ？」は、プロボノ（社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや経験を活かして取り組む社会貢献活動）体験で都市部から来ていただいたボランティアの方々にご協力いただきました。そこで、いすみ市で行われている学校給食の有機食材化と有機農業の推進を担っている方々を紹介しました。



「いすみオーガニック何それ？」PDFダウンロードはこちら

2. 地域イベントへの出展

私たちの活動を広く地域の方々にも知っていただくために、広報活動の一環として地元のイベントにも出展しています。

中でも、「お米を食べよう」をテーマにした「ライスデー房総」、いす研事務所のある長者商店街を守護している天神社の境内を借りた「天神市」は実行委員会メンバーの一員としてイベントの運営のご協力をさせていただきながら、出展をさせていただいています。会場で多くの地元の方々と触れ合う機会を持つことができます。



写真左：運営協力をしている「ライスデー房総」での広報活動
写真右：運営協力をしている「天神市」での広報活動

3. 「エコメッセちば」へのオンライン出展

毎年10月に、持続可能な社会の実現を目指した環境啓発イベント「エコメッセちば」が幕張メッセで開催されています。都市部の方々にもいす研の活動を広く知っていただくために、オンライン出展しました。



地球環境基金より、いら研の活動を評価、取り上げていただきました

1. 「地球環境基金レポート 2021」ベストプラクティス賞受賞

地球環境基金「2018～2020年度 ひろげる助成」で、いら研が行った活動（「森・里・水田・川・海一体型環境保全による夷隅川流域での生物多様性と里山・里海環境維持活動」）が、特に優れた成果を創出している活動3事業として「地球環境基金レポート 2021」にて「ベストプラクティス賞」を受賞しました。助成事業数180の中からのベスト3に選ばれたということで、いら研メンバーで喜び合っています。

この事業は、いすみ市と自然と共生する里づくり連絡協議会、房総野生生物研究所などがいすみ市で推し進めている活動に対して、民間・市民の立場からサポートする事業として、2018年度から2020年度まで取り組んだものです。学校給食の有機食料化と教育ファーム、そして、環境保全型農業の振興を促す農業国際会議の実施などのお手伝いをしてきました。

行政や協議会ははじめ、地域の各ステークホルダーと協働しながら活動を行い、狙った効果を達成することができたということが、評価されたようです。

私達の活動に協力してくださった皆さま、誠にありがとうございました。

<地球環境基金から>

地域との協働で行った参加型環境教育や情報発信により、地域住民の環境意識の変化につながりました。

また、地域の環境を保全・維持していく人を増やす活動が、子供達の体験学習などESD（持続可能な社会を目指す教育）の視点で展開されているのも素晴らしいと思います。地域内外で協働体制をさらに強化し、いすみの豊かな自然を生かした地域循環共生圏を構築していくことにも期待が高まります（「地球環境基金レポート 2021」より転載）。

2. 「協力・協働による地域づくり研修」で協働事例として紹介していただきました

2023年3月10日、地球環境基金が実施したWeb研修「協力・協働による地域づくり研修」第1回「多様なステークホルダーと協働していく方法」が行われました。

社会や地域の抱える課題が多様化・複雑化する中で、NPO・NGO、地域住民、企業および行政など、ステークホルダー間の協力が課題の解決には不可欠だと言われています。個々の組織マネジメントと合わせ、地域マネジメントが必要という認識に立ち、参加者が協働を生み出す方法に理解を深め、協力・協働を進めていくために必要となる視点を獲得できるよう、ステークホルダー間の協力関係を広げるヒント・きっかけの提供を目的として、この研修は実施されました。

ここで、講師の松原明氏（「協力世界」代表）から、ベストプラクティス賞を受賞したいら研の活動を「優れた協働関係を構築した例」として紹介していただきました。

ステークホルダー間の協力、協働については、いら研の活動では最も配慮しているところであり、この点をこうして評価していただき、とてもありがたき思います。



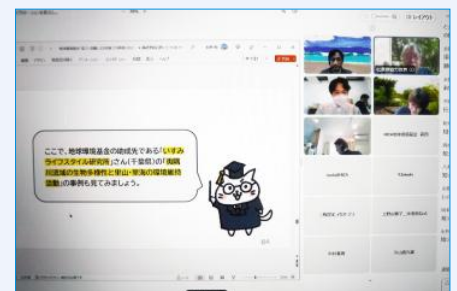
地球環境基金
ベストプラクティス賞ページへ



地球環境基金「協力・協働による
地域づくり研修」ページへ



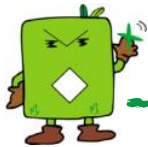
写真上：「地球環境基金レポート 2021」ベストプラクティス賞掲載誌



写真左上：「地球環境基金レポート 2021」表紙

写真右上：Web研修「多様なステークホルダーと協働していく方法」のためのオンラインミーティングの様。松原明氏、地球環境基金スタッフと（2023年2月22日）

写真右下：Web研修「多様なステークホルダーと協働していく方法」当日の様（2023年3月11日）



NPO 法人いすみライフスタイル研究所の活動紹介

NPO法人いすみライフスタイル研究所活動紹介 (2023年3月現在)

- ・房総・いすみ田舎暮らし情報センター窓口開設
- ・暮らし・空き地・空き家のサポート
- ・ローカルSDGs推進・自然環境保全と啓蒙活動・ESD推進
- ・WEBサイト『isumi-style.com』を活用した情報発信
- ・空き店舗・空き施設の活用および相談対応
- ・いすみオーガニック専門店「いすみや」の運営協力
- ・行政・企業・大学・団体との協働

- ・魅力あるつくり手の発掘・支援
- ・移住・定住促進ツアー・イベントの企画・運営・支援
- ・市内外での情報発信
- ・各種中間支援
- ・ドラマ撮影協力・取材対応
- ・映像・コンテンツ制作
- ・研修受入れ・講演

地域の方々と協力しながら、
田舎暮らしのサポートを行っています。

房総・いすみ田舎暮らし情報センター開設／空き施設の活用

2015年6月NPO事務所を、
長者商店街の空き店舗に移転。
★房総・いすみ地域 田舎暮らし情報センター
★移住サテライト相談所を開設・運営。

移住希望者の移住前後の
相談に加え、
地域の方からの人探しや
物々交換の相談など、
「地域のよろず相談所」
となっています。



MTGスペースの提供
レンタルサイクルなども

地域交流のハブ的な役割をもち、
日常的に循環を生む

地域情報から
お仕事情報なども
提供しています。

暮らし・空き地・空き家のサポート

暮らしのサポート

お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...

お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...

お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...

お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...

お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...

お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...

お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...

お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...

お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...
お引越し・お引越し・お引越し...

空き家・空き地サポート

空き家の活用...
空き地の活用...
空き家の活用...

空き家の活用...
空き地の活用...
空き家の活用...

空き家の活用...
空き地の活用...
空き家の活用...

空き家の活用...
空き地の活用...
空き家の活用...

空き家の活用...
空き地の活用...
空き家の活用...

空き家の活用...
空き地の活用...
空き家の活用...

空き家の活用...
空き地の活用...
空き家の活用...

空き家の活用...
空き地の活用...
空き家の活用...

空き家の活用...
空き地の活用...
空き家の活用...

いすみオーガニック専門店「いすみや」の運営協力



いすみ市の学校給食のご飯は、
全量いすみ市産の有機米。
野菜も有機化を進めており、
その米や野菜を購入できる。

いすみ市の有機農業の普及を応援

情報交換・つながりの場
農業や化学肥料不使用の農産品
着色料・保存料など不使用の菓子
添加物を極力排除した加工品
地域でつくられているチーズや
鶏卵・パン・クッキーなどの販売



2022年、おかげ様でいすみ研は設立15年を迎えることができました。移住定住促進と地域の魅力発信と情報発信事業を皮切りに、地域の皆さまと田舎暮らしのサポート、空き家・空き地の活用、各種中間支援、ローカルSDGsの推進、環境保全等、まちづくりに取り組んできました。
今後ますます、地域の賑わいと環境づくりに取り組んでまいります。



長者天神市の様子



大原漁港港の朝市の様子

いすみ研の活動はホームページ、Facebookで見ることができます。ぜひアクセスしてみてください。



ホームページ：
<http://www.isumi-style.com/>



Facebook：
<https://www.facebook.com/ISUMISTYLE>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ニュースレター「isumi-style.com」2023年春臨時増刊1号 地球環境基金助成事業 活動紹介編

発行日：2023年3月20日
発行者：NPO 法人いすみライフスタイル研究所
〒299-4616 千葉県いすみ市岬町長者 475
Tel：0470-62-6730 Fax：0470-62-6731
E-mail：isumi-style@bz03.plala.or.jp
発行人：高原和江
執筆・編集・DTP：江崎 亮

※右：このパンフレットは2022年度地球環境基金助成金の助成を受けて作成しました。
※左：いすみ研は「SDGs (Sustainable Development Goals ~持続可能な開発目標~)」を視野に入れたまちづくりに取り組んでいます。

